

第2章 人口の動向分析、将来展望

1 人口の動向分析

日本の人口は減少局面を迎えています。中野区は人口増加の傾向があります。特に、2014年以降は増加傾向が顕著です。増加の主な要因は若年層を中心とする転入超過によるものです。

最も人数の多い年齢層は30歳～34歳となっており、若年層が多く暮らしている一方で、総人口に対する年少人口の割合や合計特殊出生率*は低い状況となっています。

(総人口)

住民基本台帳で近年の動向を分析すると、総人口は、2005年～2010年では、東京都特別区部全体で前年度比年平均0.9%増の中、中野区は0.2%の伸びでした。

2014年、2015年では、0.8%～0.9%増となっており、特別区部全体と同様の値となり、増加傾向が顕著になっています。(【表1】)

【表1】総人口推移

(人)

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
中野区	総人口	311,747	311,207	310,198	311,256	313,665	316,625
	(内外国人)	12,185	12,636	11,418	10,610	10,949	12,283
	前年比増減率		-0.2%	-0.3%	0.3%	0.8%	0.9%
	過去5年平均	0.2%					
区部	総人口	8,851,384	8,895,198	8,914,676	8,951,575	9,016,342	9,102,598
	(内外国人)	348,857	353,219	339,448	327,266	330,586	350,863
	前年比増減率		0.5%	0.2%	0.4%	0.7%	1.0%
	過去5年平均	0.9%					

(住民基本台帳等より作成(各年1月1日))

(年齢別人口)

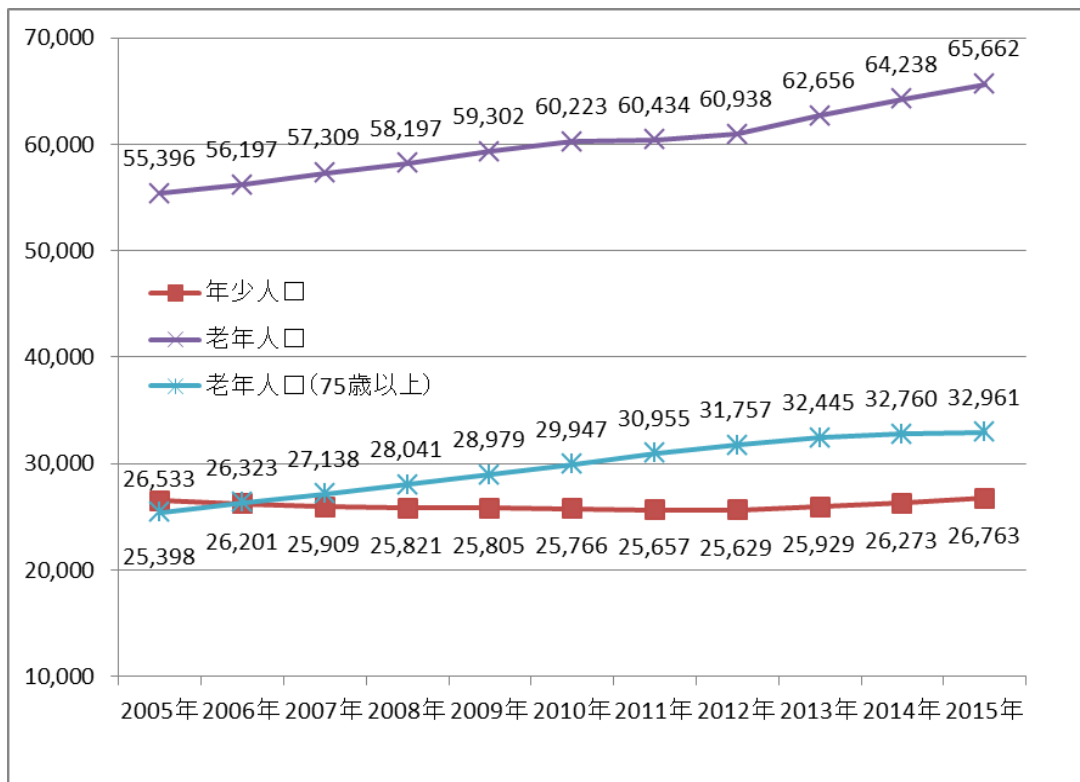
年齢3区分人口では、年少人口(0歳～14歳)は1970年代以降減少を続けていましたが、近年は減少傾向が緩やかとなり、2013年以降は微増となっています。(【図1】)

老年人口(65歳以上)は一貫して増加しており、特に75歳以上の占める割合は、2005年に45.8%だったものが2015年には50.2%と高くなってきています。(【図1】)

生産年齢人口(15歳～64歳)は年少人口と同様に1970年代以降減少を続けていましたが、近年は減少傾向が緩やかとなっています。(【図2】)

【図1】年齢3区分人口推移（年少人口・老年人口）

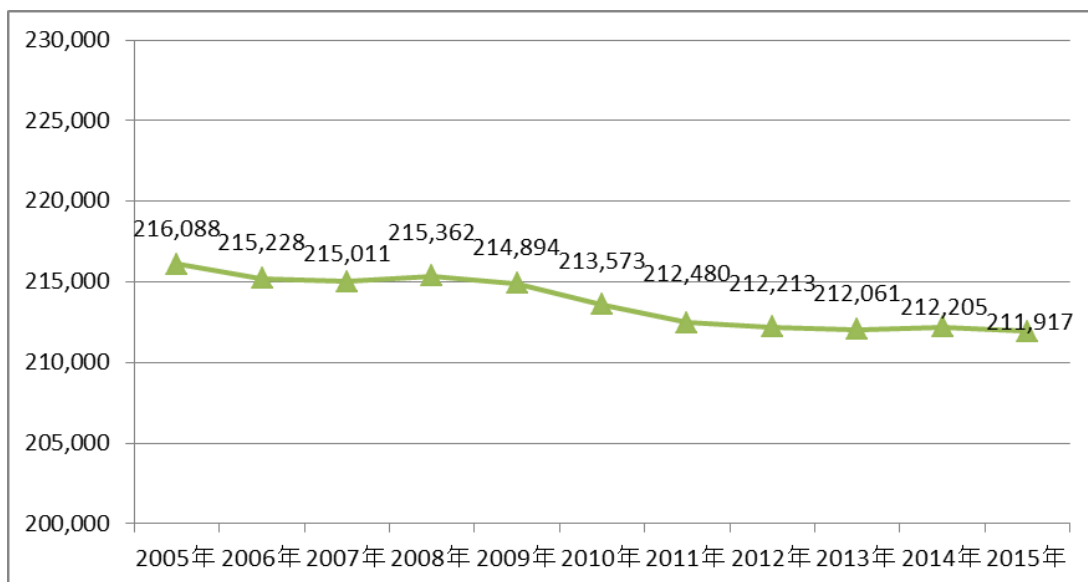
(人)



(住民基本台帳より作成 (各年1月1日 (日本人)))

【図2】年齢3区分人口推移（生産年齢人口）

(人)

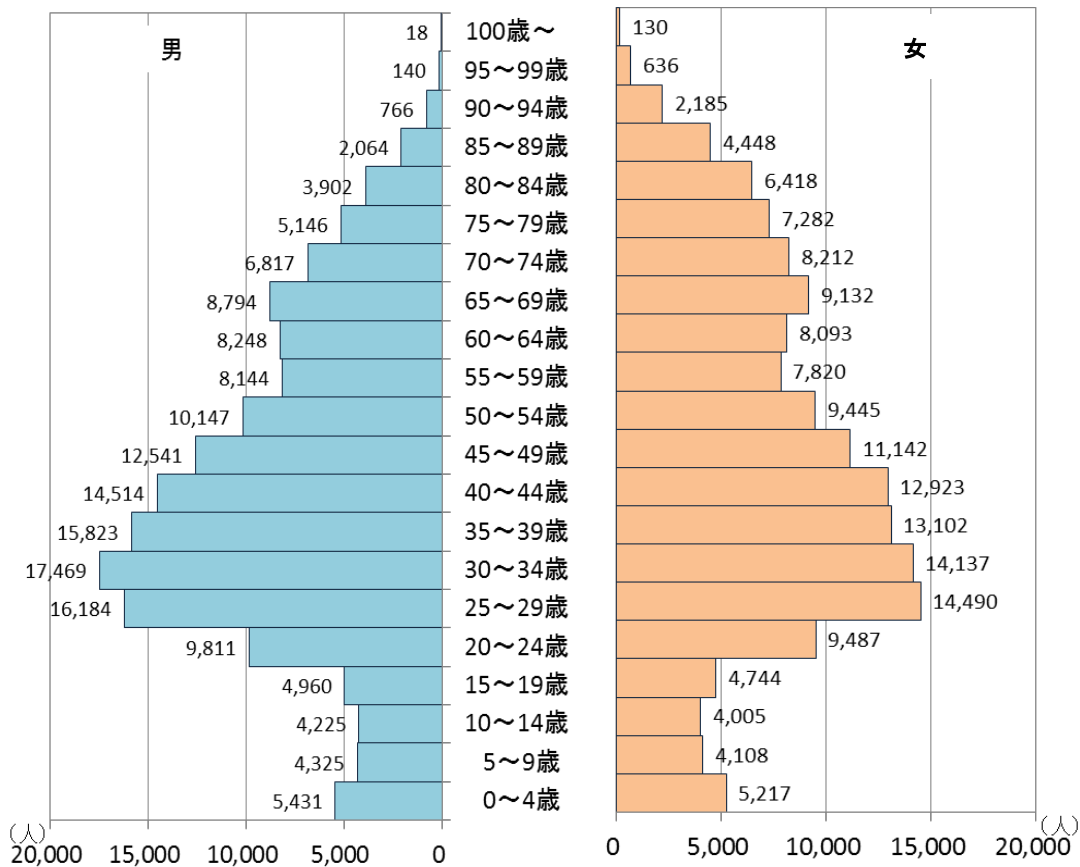


(住民基本台帳より作成 (各年1月1日 (日本人)))

現在、最も人数の多い年齢層は、男性では30歳～34歳、女性では25歳～29歳となっています。（【図3】）

また、年少人口の割合は8.6%であり、特別区部全体の数値11.3%を下回り、最も低い値となっています。

【図3】年齢別人口ピラミッド



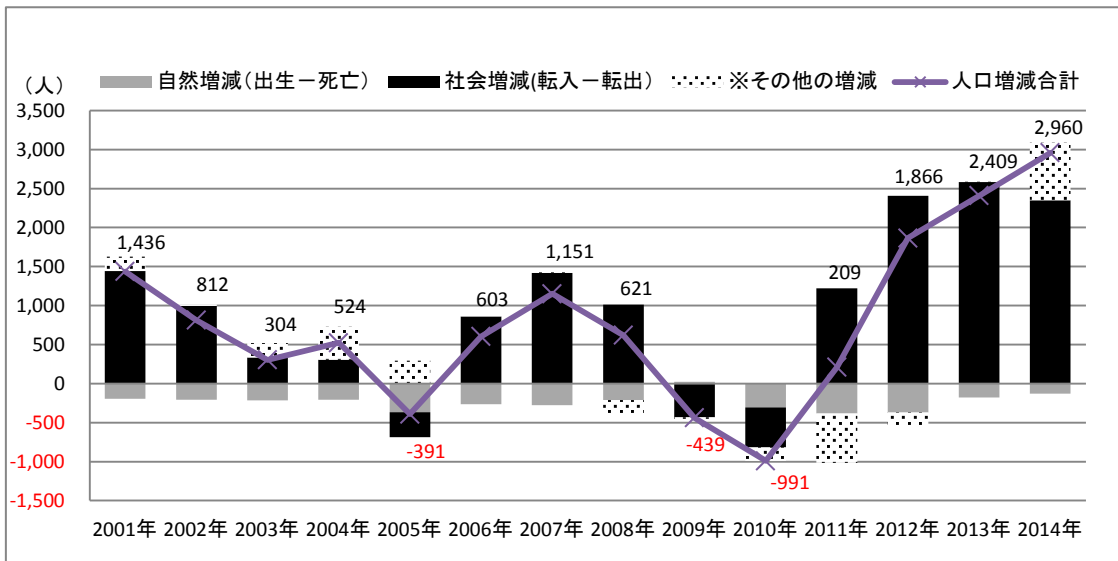
(住民基本台帳より作成 (2015年1月1日))

(人口移動)

人口増の主な要因は転入増によるものです。(【図4】)

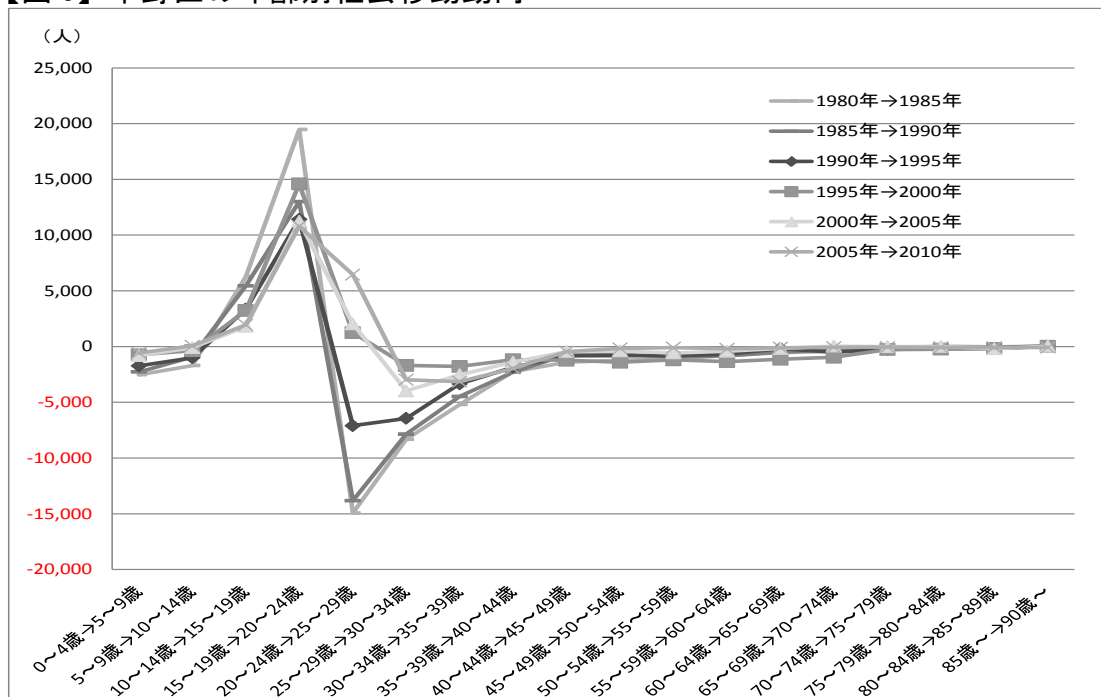
転入超過の最も多い年齢層は、15歳～19歳→20歳～24歳、一方、転出超過は25歳～29歳→30～34歳が中心となっています。推移としては、転出・転入超過数が収束する傾向があるとともに、転出超過のピークの年齢が20歳～24歳→25歳～29歳から25歳～29歳→30歳～34歳へ上昇しています。(【図5】)

【図4】 中野区の人口増減（対前年）の推移



(住民基本台帳より作成)

【図5】 中野区の年齢別社会移動動向

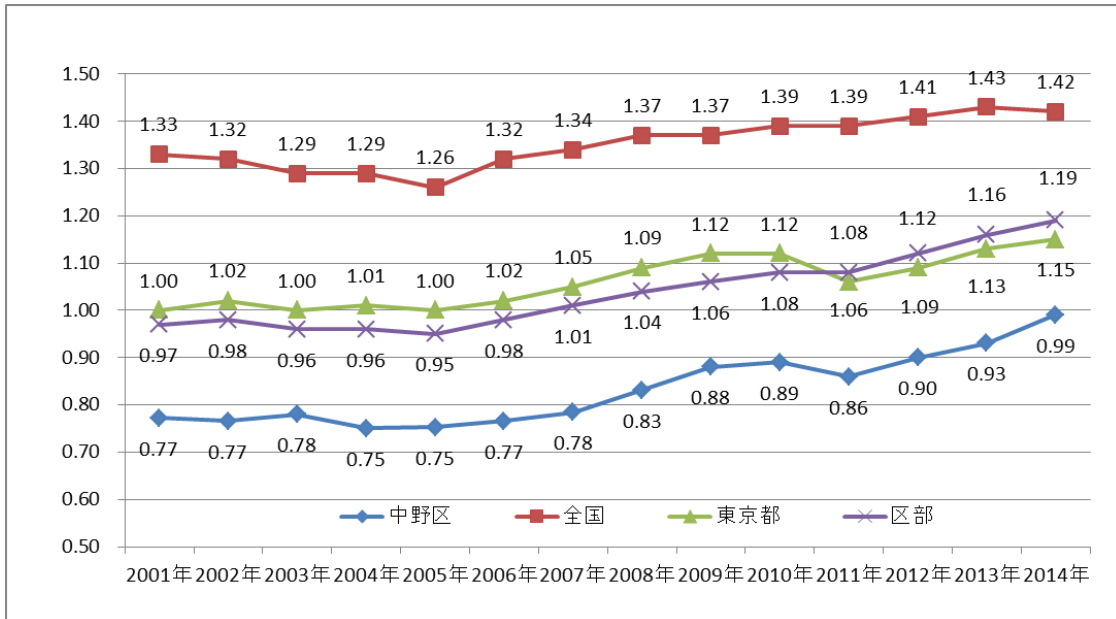


(国勢調査(総務省)等により作成)

(合計特殊出生率*)

合計特殊出生率*は、全国、東京都、特別区と比較して依然低い値ですが、近年上昇傾向があり、全国の値に対する中野区の比率が上昇し、全国の値に近づいています。(【図6】)

【図6】 合計特殊出生率*の推移



(東京都人口動態統計より作成)

2 将来展望

(基本推計)

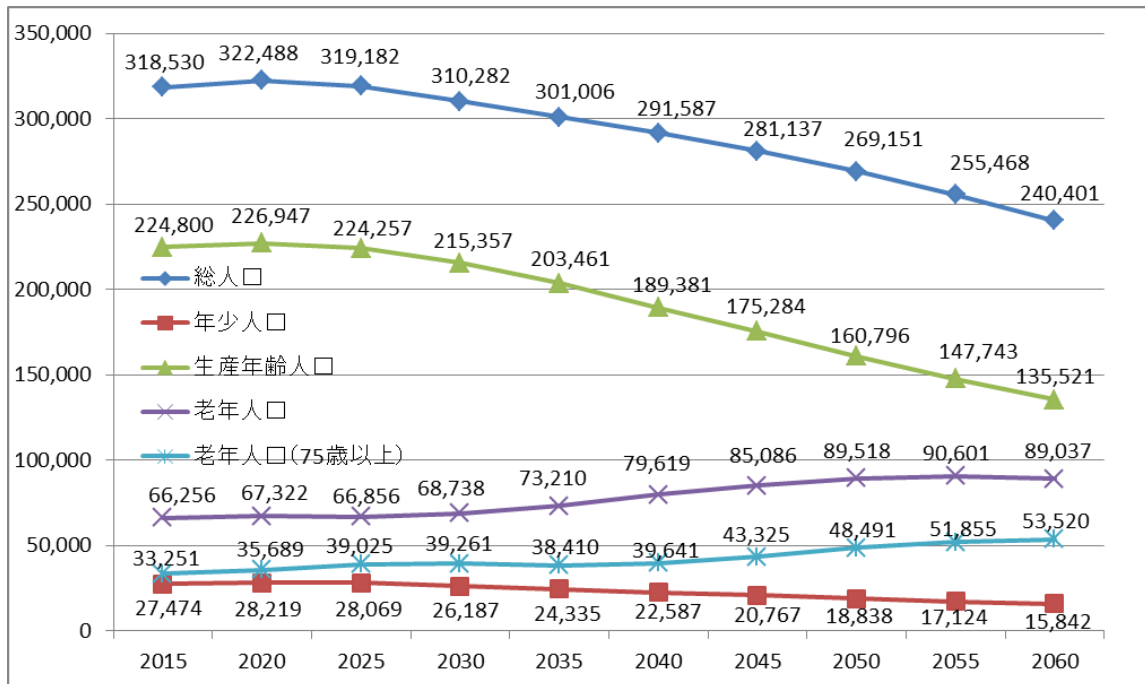
中野区における近年の人口増等の傾向、国の全国・地域別推計の動向を踏まえたものを基本推計としています。

この推計では、2020年までは直近の人口増の傾向を反映する一方、中野区の人口は社会移動による影響が大きいことから、2020年以降は全国的な移動の縮小傾向を反映しています。

合計特殊出生率*は、2014年の合計特殊出生率*(0.99)を基本とし、2025年まで微減、以降横ばいという全国推計の動向を踏まえています。

【図7】基本推計

(人)



(区がめざす将来推計)

将来の少子化・人口減少をできる限りくいとめ、超高齢社会*、人口減少の局面においても、地域社会・地域経済の縮小を回避し、持続可能な地域社会を形成する基盤をつくるため、次の前提で区がめざす将来推計を行います。この将来推計の維持に向け施策を充実していきます。

人口移動に関しては、子どもを産む世代の定着を図ることをめざします。

合計特殊出生率*に関しては、中野区は全国等と比較して依然低い値ですが、近年は上昇傾向にあり、この傾向を継続させていくことを目標とします。

【合計特殊出生率*目標】

(2014年実績) 0.99

⇒ (2020年) 1.12 ⇒ (2030年) 1.38 ⇒ (2040年) 1.65

※前年比2%ずつ上昇

【図8】区がめざす将来推計

(人)

